

(素案)

447 (2)現地調査

448 学校施設と他の公共施設等との複合化検討部会では、学校施設の複合化事例に
449 ついて現地視察により実態調査を行った。

450

451 <視察先一覧>

452

453

No	都道府県	学校名	エリア分類*	余裕教室活用	整備後15年超経過	学級数・児童生徒数(通常学級)	複合した機能
454	1 東京都	千代田区立昌平小学校	①		○	9学級245名	幼稚園、保育所、児童館、図書館
455	2 "	台東区立上野小学校	①		○	12学級294名	幼稚園、公民館、区民プール
456	3 "	品川区立第一日野小学校	①			17学級527名	放課後児童クラブ、幼保連携施設、図書館、行政機関、文化センター(音楽ホール、プラネタリウム)
457	4 "	目黒区立碑(いしぶみ)小学校	①			17学級559名	屋内プール、行政機関出張所、地域包括支援センター
458	5 "	世田谷区立芦花小学校 ・芦花中学校	①			小22学級712名 中8学級268名	新BOP(放課後児童クラブと放課後子供教室の融合施設)、保育所
459	6 "	世田谷区立砧南中学校	①	○		12学級426名	保育所
460	7 京都府	京都市立京都御池中学校	①			19学級699名	保育所、デイサービスセンター、在宅介護支援センター、行政機関、賑わい施設(民間)
461	8 埼玉県	志木市立志木小学校	②			22学級677名	放課後児童クラブ、公民館、図書館
462	9 "	吉川市立美南小学校	②			17学級527名	放課後児童クラブ、子育て支援センター、高齢者ふれあい広場、公民館
463	10 千葉県	市川市立第七中学校	②			21学級820名	市民ホール、保育所、デイサービスセンター、ケアハウス
464	11 京都府	宇治市立小倉小学校	②	○	○	24学級731名	デイサービスセンター、地域包括支援センター
465	12 新潟県	十日町市立十日町小学校 ・ふれあいの丘支援学校	③			12学級291名	放課後児童クラブ、特別支援学校、児童発達支援センター
466	13 "	聖籠町立聖籠中学校	③			12学級406名	地域交流ラウンジ
467	14 石川県	かほく市立宇ノ気中学校	③			14学級490名	市立体育館
468	15 富山県	南砺市立利賀小学校 ・利賀中学校	③		○	小3学級16名 中3学級18名	放課後児童クラブ、公民館

469

* 以下の方法によりエリア分類を行っている。

- ① 首都圏整備法における既成市街地及び近畿圏整備法における既成都市区域(都心等)
- ② 首都圏整備法における近郊整備地帯及び近畿圏整備法における近郊整備区域(近郊)
- ③ その他の区域(地方等)

471

472

473

1. 東京都千代田区

千代田区立昌平小学校

■ 学校規模／9学級245名

■ 複合施設(床面積)／
 小学校(9,057㎡)
 幼稚園(851㎡)
 児童館(1,388㎡)
 保育所(243㎡)
 図書館(188㎡)

■ 整備時期／平成8年

■ 構造／RC造 地上6階 地下2階

市街地に学校と子育て機能等を立体的に整備

- ・狭い敷地を有効活用し、地域に必要な図書館、幼稚園等を整備
- ・地域の理解を得て、午前中は近隣公園の専用使用が可能に

施設整備の背景

千代田区における厳しい土地事情の中で、学校の建て替えと併せて地域に必要な幼稚園、児童館、まちかど図書館を複合化した。その後、保育所不足を踏まえ、平成24年に改修により保育所を整備した。

管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校	←→				教育委員会	教育委員会
幼稚園	←→	←→	←→		教育委員会	教育委員会
児童館		←→	←→		教育委員会	教育委員会
保育所	←→	←→	←→		教育委員会	教育委員会
図書館		←→	←→		区長部局	区長部局

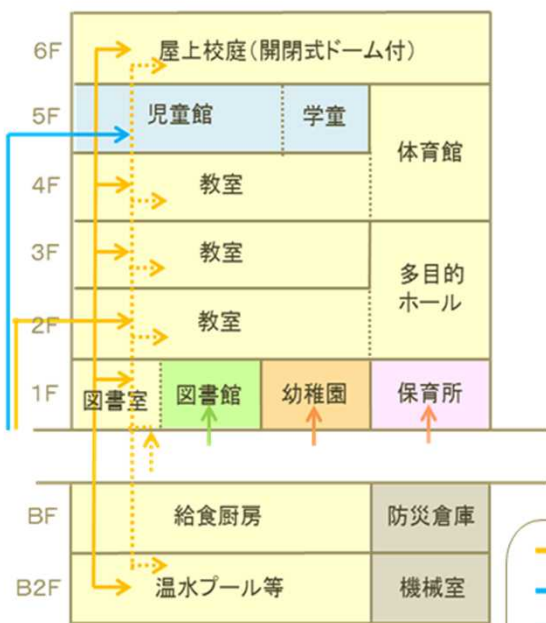


商業地の狭い敷地に建つ6階建ての校舎と、隣接している公園

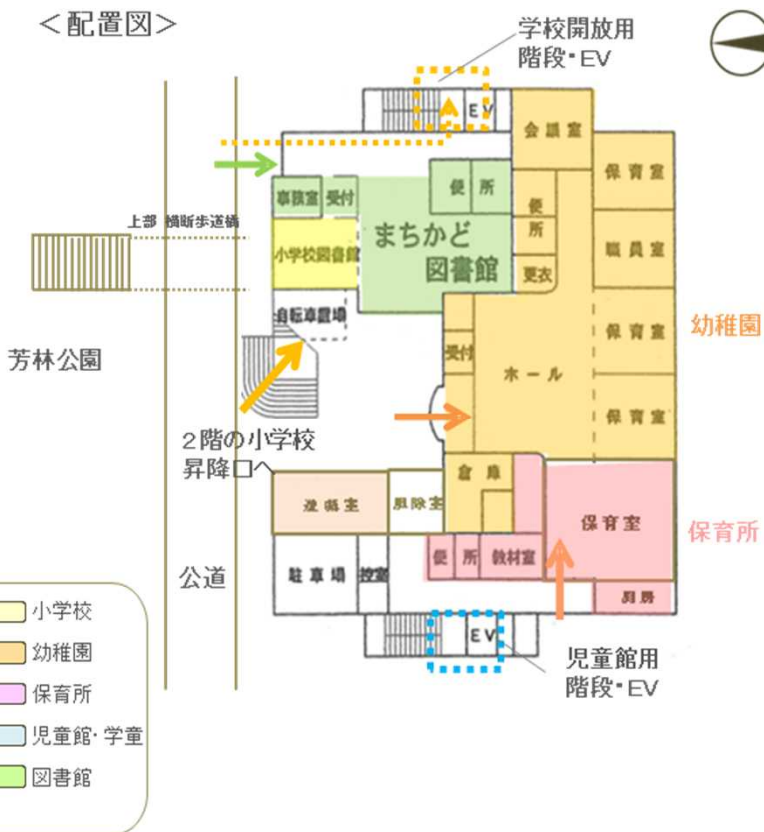
施設の配置・動線

- ・2～4階を学校の教室とし、1階に図書館、幼稚園、保育所を配置。敷地が狭いため、校庭は屋上に、温水プールは地下2階に配置。
- ・児童館は5階に設け、学校とは別の階段・エレベーターを使用することにより、管理区分を明確にしている。

< 立面図 >



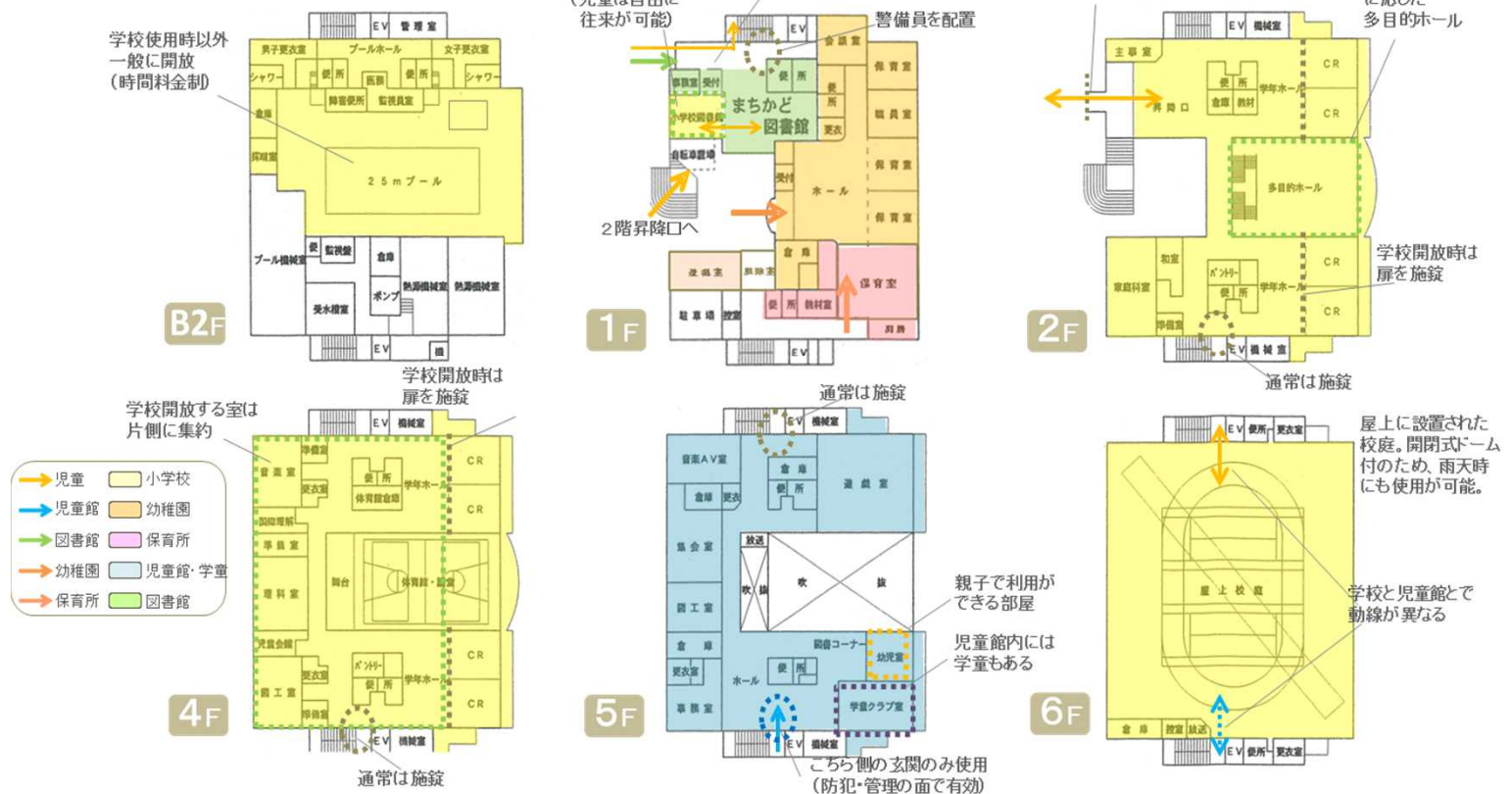
< 配置図 >



- 児童 (Yellow arrow)
- 児童館 (Blue arrow)
- 図書館 (Green arrow)
- 幼稚園 (Orange arrow)
- 保育所 (Pink arrow)
- 児童館・学童 (Light blue arrow)
- 図書館 (Light green arrow)
- 学校開放 (Dotted yellow arrow)
- 小学校 (Yellow square)
- 幼稚園 (Orange square)
- 保育所 (Pink square)
- 児童館 (Light blue square)
- 図書館 (Light green square)



平面計画上の特徴



学校と図書館の交流

- ・1階に区立図書館と学校図書館を一体的に整備しており、児童は休み時間等に図書館を使うことができる。
- ・区立図書館の司書が、週3回、学校を訪れて読み聞かせなどを行っている。



区立図書館と一体的に整備された学校図書館

→ 同一施設という環境を活かし、公共施設の設備と人材を学校教育にも活用

地域住民の利用へ配慮

- ・地域住民が使いやすいように、地域の意見も取り入れ、多目的ホールや家庭科室を2階に配置
- ・学校のプールは屋内プールとし、平日夜と土日祝日に一般開放している。プールは地下2階に配置
- ・学校開放の際は、図書館職員が手続きを行うとともに、警備員が出入りの管理を行っており、学校の負担軽減につながっている。



2層吹抜の多目的ホールは特に地域住民に評判が良い



学校時間外に屋内プールを地域に開放

多様な子供向け施設

- ・1階に私立の保育所(0~2歳)と区立幼稚園(3~5歳)とが整備されている。保育所は、待機児童対策のために、平成24年に施設を増設改修して整備されたもの。
- ・5階には児童館が整備されており、学童保育は最大午後7時までの延長保育を行っている。そのため、都心の商業エリアに立地しているが、保護者は安心して預けることができる。



1階に入っている幼稚園



5階部分全体を使った広い児童館

地域の協力による公園利用

- ・地域の理解を得て、隣接した公園に門を設置。平日の午前中は幼児や児童が専用利用できるようになり、地域で安心して子供が遊べる場所が確保された。
- ・児童は2階昇降口から、歩道橋を通して公園に直接アクセス可能



地域住民の協力により隣接した公園に設置された門

→ 土地の少ない市街地において公共スペースを有効的に活用

委員の意見より

学校開放により校内を地域住民が自由に移動できるため、両者の間に垣根を作らない設計により地域に根差し地域に愛されているのではないかと。一方で、部品の調達やメンテナンス費用の増大に苦労しており、将来を考えて設計することの重要性を改めて認識させられた。

台東区立上野小学校

- 学校規模 / 12学級 294名
- 複合施設(床面積) / 小学校(6,608㎡) 幼稚園(464㎡) 社会教育センター(1,689㎡) 社会体育施設(1,906㎡)
- 整備時期 / 平成3年
- 構造 / RC造 地上4階 地下1階



小学校と社会教育施設をつなぐアプローチガレリー

インテリジェント・スクールの先駆的事例

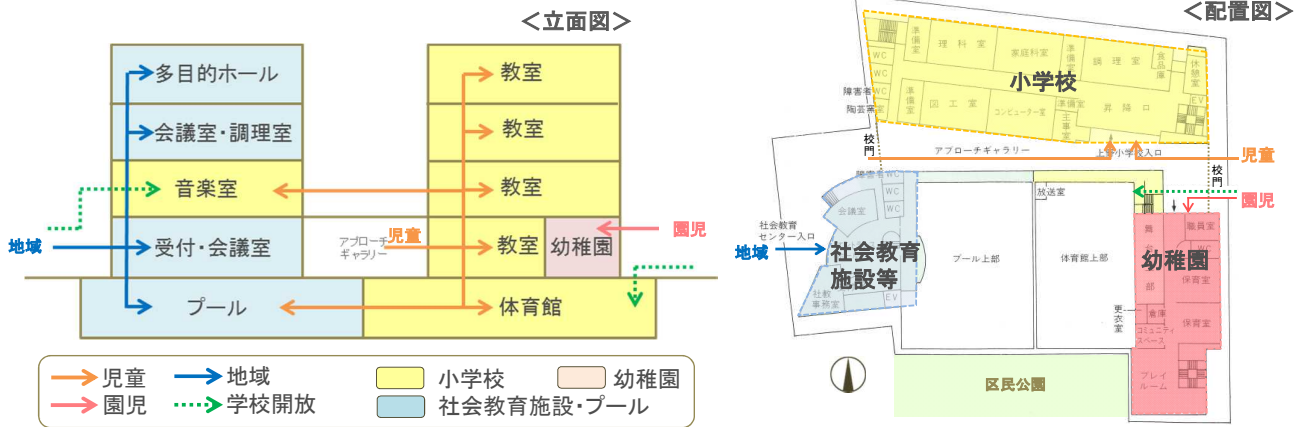
- ・地域の生涯学習拠点としての複合化施設
- ～地域の学校教育・生涯学習への意識・関心を高め合う施設
- ・明確な管理区分による防犯対策

複合化の背景

- ・清島小と下谷小の統廃合によりできた小学校。
- ・元より清島小に併設されていた社会教育施設と幼稚園との複合化施設として整備。
- ・昭和62年度 文部省インテリジェントスクール研究委託先。

施設の区画・動線

- ・施設内において、小学校、幼稚園、社会教育施設等の区域は隣接しているものの、動線や利用時間を分けることで明確に区分されている。



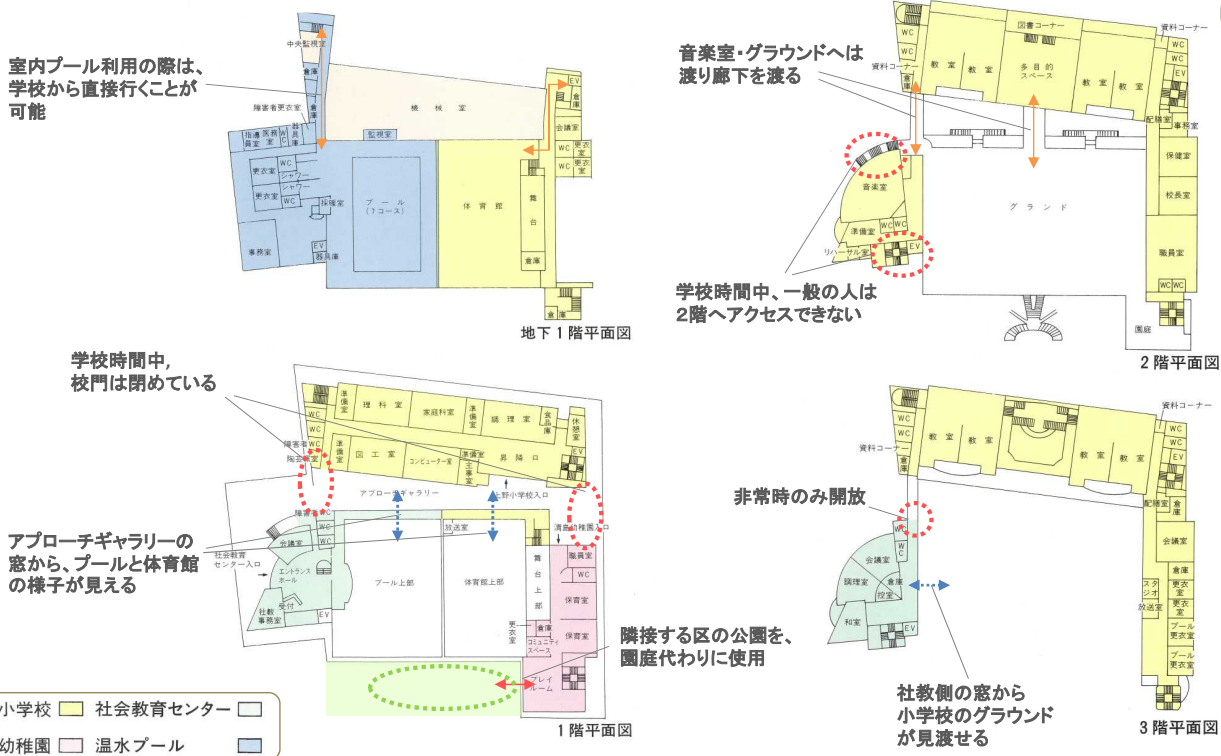
管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)			所管	管理運営
	8	12	17		
小学校	←	→		教育委員会	教育委員会
幼稚園	←	→		教育委員会	教育委員会
社会教育センター	←	→	→	教育委員会	指定管理者

・社会教育センターは指定管理者制度により民間企業が運営している(施設全体の維持管理も同企業が請け負っている。)

平面計画上の特徴

- ・学校時間帯は、施設等により児童と一般の人が交わらず、防犯面で優れている。
- ・施設間には分離されているが、視覚的には互いの活動の様子を見ることができる。



児童と地域間の交流

- ・児童は日常的に 地域の人が社会教育施設で生涯学習活動をする姿を見ることができる。
- ・社会教育施設からも学校活動の様子が見える。



見える



毎日児童が通る昇降口前の窓からは、体育館やプール内の様子が見える。



見える



社会教育施設の窓から、校舎やグラウンドで活動する児童の様子が見える。

→ 相互の活動に対する理解・関心を高められている

財政面

整備費用を抑えることを目的とした複合化ではなく、施設間の設備の共有も少ない。(例: 学校プールと区民プールを別に設けている。)

委員の意見より

- ・3つの施設が明確に分離され、防犯上の問題は少なく施設管理がしやすい構成。
- ・たとえ各施設が分離されていても、運営面の工夫により交流を活発化させることも可能。
- ・児童が、生涯学習を続ける地域住民の姿を普段から感じ取れる雰囲気・環境は、通常の学校では得難いものがある

相互利用・活用

- ・小学校の音楽室は社会教育施設棟の2階にあり、時間外には地域に開放をしている。
- ・幼稚園は専用の園庭を持っていないが、小学校のグラウンドと、隣接する台東区の清島児童遊園を利用している。
- ・区民プールは、小学校の授業でも利用が可能。



地域の人に開放している音楽室



幼稚園から直接出られる隣地の公園

→ 公共施設を一体的に整備し共有することで、各施設の機能を有効に活用できている。

防犯面

- ・学校時間内は学校の区域に一般の人が入れないように扉の施錠等、物理的な対策が取られている。



学校開放時にのみ開錠される入口
(音楽室とグラウンドへつながる)



校門は登下校時以外は施錠している

図面等を明確にするため、
この内容を見開き(2P)
にする。

3. 東京都品川区

品川区立第一日野小学校 5つの教育・文化施設を一体的に整備

- 学校規模 / 17学級527名
(特別支援学級 / 4学級26名)
- 複合施設(床面積) /
小学校(7,830㎡)
幼保一体施設(1,475㎡)
図書館(1,181㎡)
文化センター(4,508㎡)
教育センター(1,454㎡)
- 整備時期 / 平成3年
- 構造 / RC造一部S造 地上6階 塔屋1階



小学校の図書室に設けられた幼児用の読書スペース

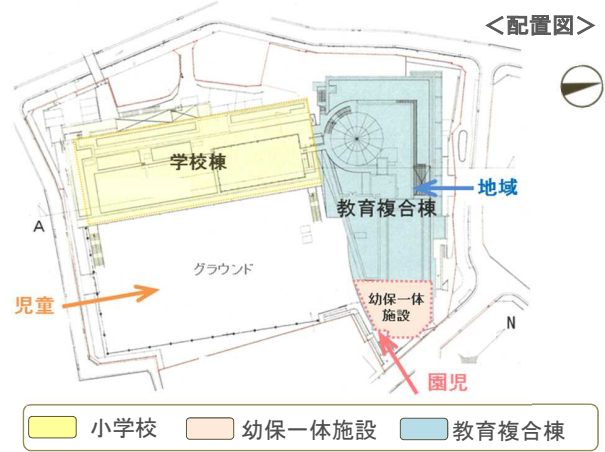
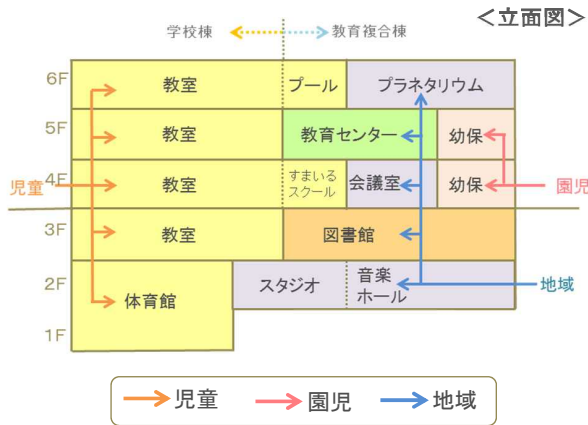
- ・ 図書館、音楽ホール、プラネタリウム等、多様な施設との複合化
～多世代が集う地域の学習・文化活動の拠点
- ・ 連携した運営により、積極的な施設の有効活用・人材交流を実施

施設整備の背景

- ・ 改築前は、現在の敷地に中学校・教育総合会館(図書館・教育センター)、文化センターがあり、その隣地に第一日野小学校及び幼稚園があった。
- ・ 中学校の移転に伴い、跡地に小学校を改築。既存の教育総合会館を改修・増築し、幼保一体施設も同時に整備した。

施設の配置・動線

- ・ 各施設は明確に区分している。(児童・園児・地域の動線は交わらない。)
- ・ 敷地の高低差を活かし、校舎の高さを抑えるとともに、各施設を利用しやすく配置している。



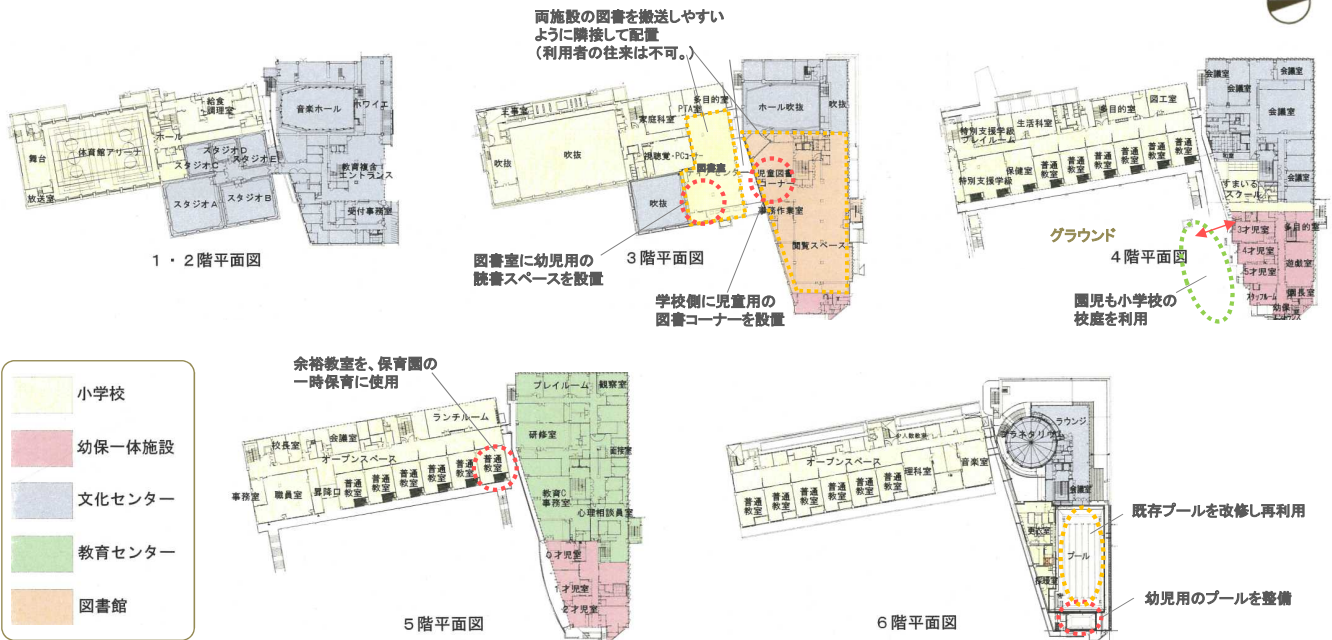
管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)			所管	管理・運営
	8	12	17		
小学校	←→	←→	←→	教育委員会	教育委員会
幼保一体施設	←→	←→	←→	区長部局	区長部局
図書館	←→	←→	←→	教育委員会	教育委員会
文化センター	←→	←→	←→	区長部局	区長部局
教育センター	←→	←→	←→	教育委員会	教育委員会

・施設全体の維持管理業務は民間の管理業者に委託。

平面計画上の特徴

- ・ 各施設は明確に区分されており、動線が交わらないように設計されている。
- ・ 品川区が推進する、小学校と幼稚園・保育園との連携教育に応じた整備がされている。



相互利用・交流活動

- ・小学校の校庭や体育館を幼保一体施設でも使用
- ・幼児用のプールや読書スペースを、小学校内に設置
- ・小学校の余裕教室を、保育園の一時保育やPTA活動に使用

→ **・小学校の設備とスペースを幼児教育にも活用**
・小学校・幼稚園・保育園における教育に連続性を持たせる

- ・学校の図書室で、隣接する区立図書館の資料も貸出しが可能
- ・設備の調った音楽ホールを、音楽発表会等で使用(使用料無料)
- ・授業や親子教室等でプラネタリウムを活用

→ **学校教育にも公共施設を有効的に活用**



小学校と幼保一体施設が共有する校庭



小学校プールの脇の幼児用プール

防犯対策

- ・施設を明確に区分している。
- ・学校の図書室と区立図書館は、一体的な利用も可能であるが、安全性を確保する観点から、現状として別々に施設管理している。



地域の利用者の出入口となる
教育複合棟のエントランス



学校の図書室と区立図書館は
中庭を挟んで向かい合っている

→ **地域の実情に応じた対応により、児童の安全を確保**

施設間の連携

各施設の担当者間で毎月合同の打合せを実施。各施設の近況や利用計画、防犯対策等について密に連携を取っている。

→ **運営面の工夫により、施設間の交流・相互利用を促進**

地域の拠点

- ・小学校、幼保一体施設、教育センターといった地域の教育施設と、音楽ホール・プラネタリウム・スタジオ等、地域の文化施設が集約された、地域の教育・文化活動の拠点施設となっている。

→ **多様な施設に囲まれていることで、日常的に学習や文化に対する関心・活動機会が高まる**



設備の調った音楽ホールでは
日々様々な催しが行われている



授業等でも活用できる
文化センターのプラネタリウム



学校教育に関する相談ができる
教育相談センター

委員の意見より

- ・多様な施設で構成された高機能な教育施設が整っているだけでなく、相互利用を可能にする運営が行われていることが、児童の教育効果をあげているのではないかと。
- ・大都市における学校と地域との連携には限界がある。このため、施設の複合化を通じて、自然に子供たちが、社会の多様な面に触れたり、地域住民が学校に対する理解を深めたりすることができるのではないかと。

図面等を明確にするため、
この内容を見開き（2P）
にする。

4. 東京都目黒区

目黒区立碑小学校

- 学校規模 / 17学級559名 (特別支援学級 / 3学級18名)
- 複合施設 (床面積) / 小学校 (7,830㎡) 地区プール (1,462㎡) 目黒区出張所・地域包括支援センター (500㎡) 地域防災用備蓄倉庫 (51㎡)
- 整備時期 / 平成19年
- 構造 / RC造一部S造 地上5階



学校に併設された地区プール

学校と地域に求められる機能を備えた複合施設

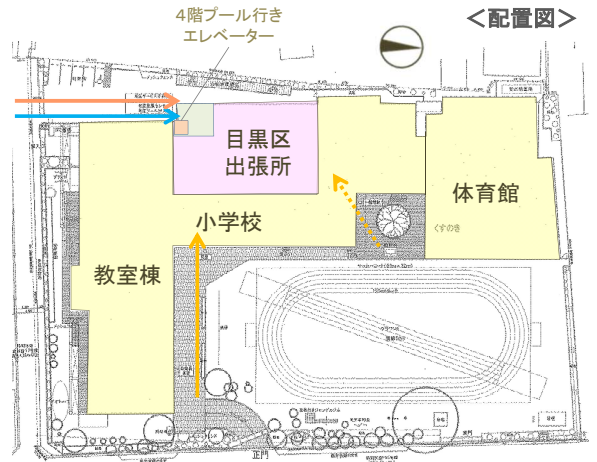
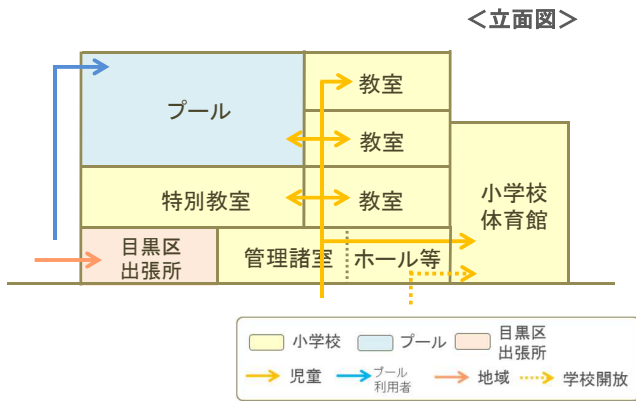
- ・学校の屋内プールを地区プールとして地域に開放
- ～施設管理等は業務委託とし、学校側の負担を軽減
- ・各施設利用者と児童の動線は完全に分離

施設整備の背景

老朽化が進んでいた校舎を改築する際に、碑小の周辺地域にはなかった屋内プールを整備。併せて、地域に必要な区の出張所等を整備。地域住民の意見を踏まえ、設計を行った。

施設の配置・動線

学校とその他の施設は同じ建物でありながら、敷地入口、建物入口、内部動線の全てが明確に区分されており、鍵を使わない限り互いに行き来ができないようになっている。

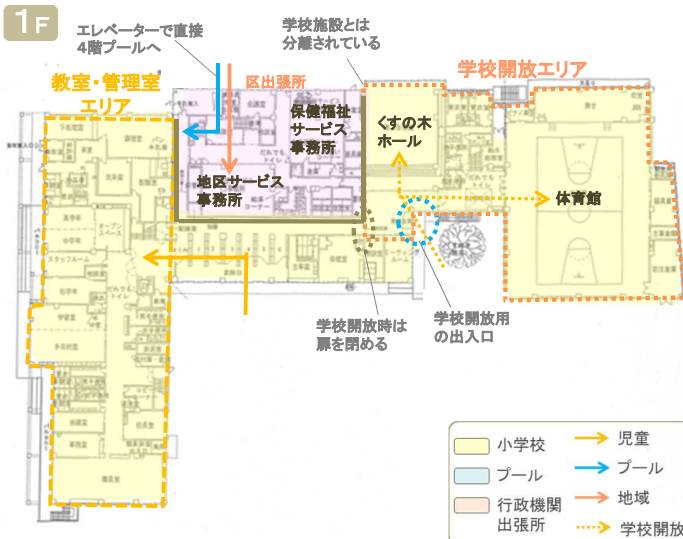


管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校	←→→→				教育委員会	教育委員会
地区プール	←→→→				区長部局	区長部局
区出張所	←→→→				区長部局	区長部局

平面計画上の特徴

- ・小学校とその他の施設とは完全に分離されており、学校時間中に児童と他施設の利用者が重なる場所はない。
- ・小学校のうち学校開放をするエリアは1階の北側に集約している。学校開放時には小学校の教室・管理室エリアへ繋がる動線を扉で遮断し、施設利用者が入らないようになっている。



業務受託者が管理する屋内プール

- ・区内の他の地域にはそれぞれプールがあったが、碑小が位置する南部地区には存在しなかったため、屋内プールを整備。
- ・一般利用者と児童の利用を踏まえ、エリアを分割して床の高さを調整できる昇降式としている。
- ・学校は授業及びクラブ活動で使用している。季節及び天候に限らずプールを使うことができる。なお、指導は教員が行っている。
- ・学校が授業などで利用する場合は、通常時は施錠されている4階の扉の鍵を教員が開けて児童をプール側に誘導している。
- ・業務受託者がプールの管理をしており、また、業務受託者は、学校施設全体の保守点検業務も併せて受託している。

→ 高機能な屋内プールは、地域住民のためにもなっており、また、特色ある教育活動も可能となっている。

学校開放を考慮した配置計画

- ・学校開放を行っている体育館と、1階のけやきホールには、専用の入口が設けられている。
- ・学校開放部分とそれ以外の部分を区分するための施錠可能な扉が設けられている。



学校開放部分とそれ以外の部分を区分する扉

→ 学校開放時の管理負担の軽減に繋がっている

委員の意見より

各施設の出入り口を別にし、施設間のドアを施錠するなど、学校と南部地区サービス事務所、南部包括支援センター等は各々明確に区画されており、安全性を確保している。

動線分離等による防犯対策

- ・児童の防犯面を第一に考えて設計。
- ・行政機関出張所やプールの利用者のアプローチは、児童とは別の動線となっている。
- ・建物の中でも、通常時は互いに行き来できないようになっている。
- ・4階プールへは、小学校内を通らずに、専用のエレベーターで直接向かうことが可能。
- ・学校正門、通用口には防犯カメラも設置。

→ 動線を完全に分離し、安全性を確保している。



行政機関出張所やプールの利用者専用のアプローチ



プール専用のエレベーター

地域とともにある学校

- ・地域住民による「おらが町の学校」という意識の強いエリアであり、学校改築に当たっても、地域住民が積極的に参加。住民の意見も取り入れ、設計を行っている。
- ・地域住民が企画し、児童が参加するような交流として、火起こし体験、キャリア教育(児童の保護者に仕事の内容を紹介してもらうなど)などを行っている。

図面等を明確にするため、この内容を見開き(2P)にする。

5. 東京都世田谷区

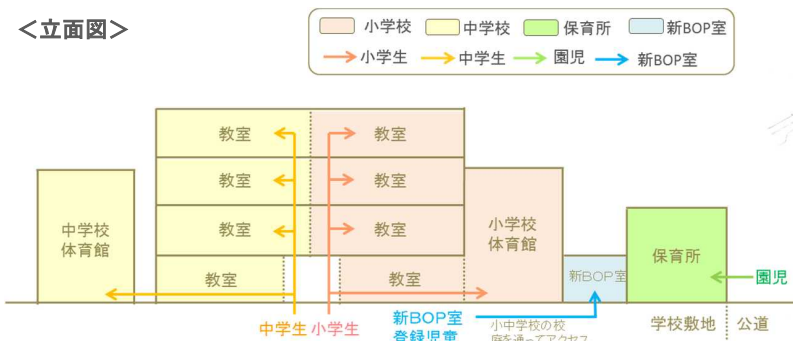
世田谷区立芦花小学校
世田谷区立芦花中学校

- 小学校規模／22学級712名
(特別支援学級／2学級16名)
- 中学校規模／8学級268名
(特別支援学級／3学級20名)
- 複合施設(床面積)／
小・中学校(21,162㎡)
保育所(924㎡)
- 整備時期／平成24年(一部改築)
- 構造／RC造 地上4階



道路からの1か所のみ
入口を限定した保育所

<立面図>



校舎の改築に併せて保育所を移転整備した事例

- ・小学校・中学校と保育園との複合化により、交流活動を創出
- ・防犯の観点から、保育所敷地への入口は小学校・中学校とは別に設置

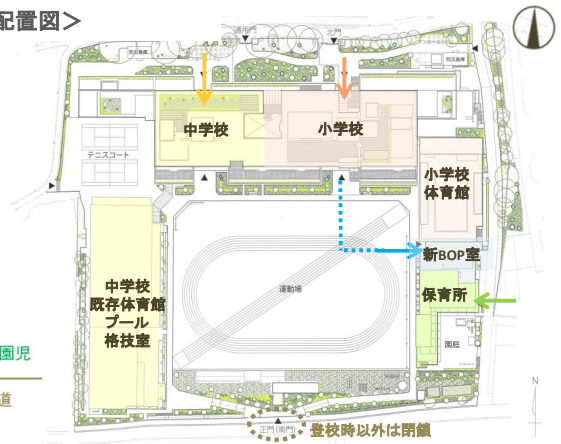
施設整備の背景

老朽化に併せた校舎の一部改築の際に、今後取り壊し予定の都営住宅内にある保育所を移転整備した。

施設の配置・動線

- ・保育所は、学校敷地の南東側に配置。保育所敷地への入口は道路からの1か所に限定し、動線の分離を図っている。
- ・新BOP室は、放課後に体育館や校庭の利用が容易になるように配置している。

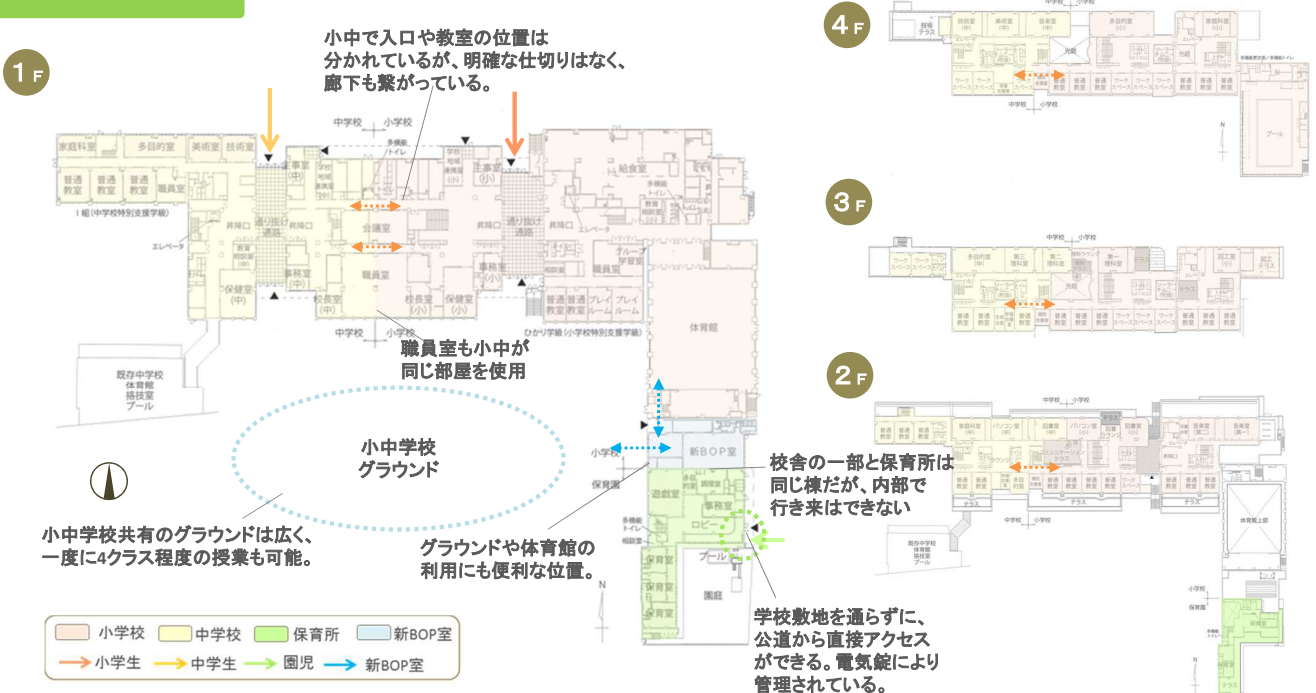
<配置図>



管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小・中学校	←→				教育委員会	教育委員会
保育所	←→				区長部局	区長部局

平面計画上の特徴



動線の分離

- ・保育所は、学校敷地の南東側に配置。保育所敷地への入口は道路からの1か所に限定し、動線の分離を図っている。
- ・新BOP室は、道路側のドアは常時施錠し、校庭側に入口を設けたことで、児童は安全に新BOP室まで移動ができ、学校の校庭で遊ぶことも可能。
- ・小学校と中学校で、それぞれ敷地への入口と昇降口を設けている。



新BOP室の入口は校庭側に設けられている



小学校用の門

小中学校における防犯対策

- ・小学校では夜間に機械警備をしており、中学校では夜間の常駐警備を行っているため、同じ施設としてより安心である。
- ・南側(校庭側)の校門は登校時にしか開放せず、下校時は北側の校門のみ使用している。
- ・小中学校で門や昇降口は異なるが、小中学校の施設間には扉もなくつながっているため、小学校に用事のある人が中学校の区域に入ってしまうことがある。

委員の意見より

- ・年齢がより近い小学校と保育所というよりも、中学校と保育所という連携活動の効果に関して、中学生への教育効果が高いことが挙げられており印象的であった。
- ・防犯の面から複合化に反対する地域住民もいたようなので、複合施設の利点、防犯対策等を積極的に発信することも重要なのではないかと。

保育所と小中学校の交流

- ・保育所において中学生が職場体験を行っている。中学生の普段は見られない優しい一面が見られることもある。
- ・小学生による園児への絵本の読み聞かせを行っている。
- ・保育所の2階テラスや1階の窓からは、校庭で運動している小中学生の様子を見ることができる。



保育所の2階テラスからは校庭の小中学生が見える

体育館の柔軟な活用

- ・体育館は小学校用と中学校用の2つがある。部活動を行う際は、小中学校両方の体育館を使うことができる。
- ・部活動が終わった後の平日夜は、小中学校の体育館を地域開放している。(区民がインターネットで予約可能)
- ・保育園は、運動会の予行演習などで小学校体育館を利用している。
- ・新BOPの活動は、新BOP室のほか校庭や小学校体育館を中学生の部活動と調整をしながら行っている。

図面等を明確にするため、
この内容を見開き(2P)
にする。